東京女子医大病院
中央検査部検査技師会
学術集会

採血室における糖・食事負荷試験の役割と意義

○清水真希[1]、高津和子[1]、井上美幸[1]、菊谷　光[1]、
坂東千明[1]、坂元　靖[1]、佐藤麻子[2]

採血採尿検査室[1]、糖尿病代謝内科[2]

採血室における特殊採血

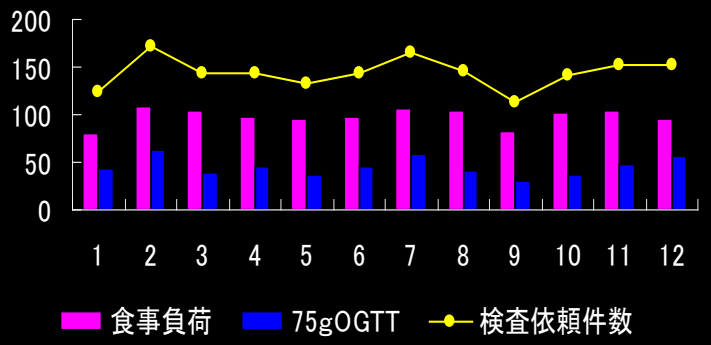
75g経口ブドウ糖負荷試験(以下75gOGTT)
食事負荷試験
小児採血、クレアチニンクリアランス、
アミラーゼクリアランス、毛細血管抵抗試験
血小板凝集能、血小板粘着能
出血時間測定：Duke法
：Ivy法



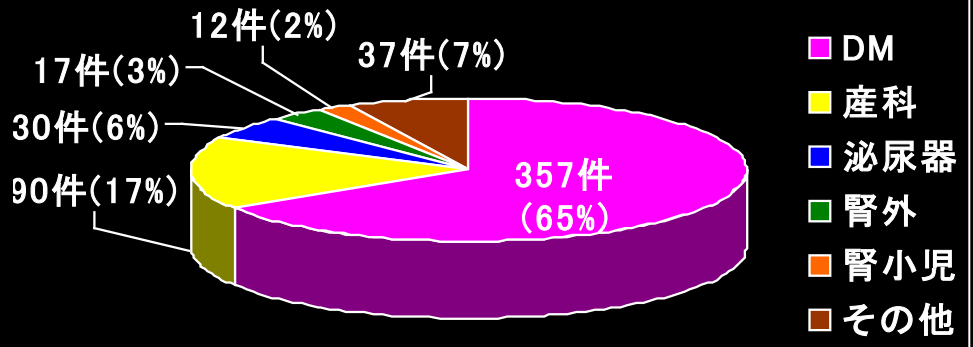


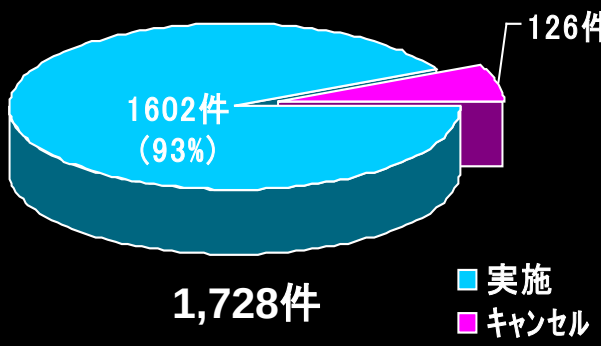
負荷試験の実施件数

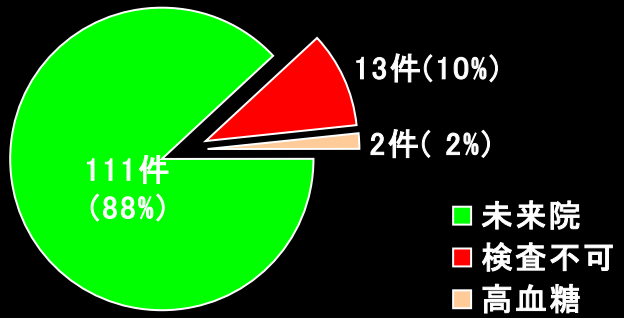
≪年間実施件数≫



≪75gOGTT 診療科別実施件数≫







75g経口ブドウ糖負荷試験 (75gOGTT：Oral glucose tolerance test)

個々人の耐糖能測定試験

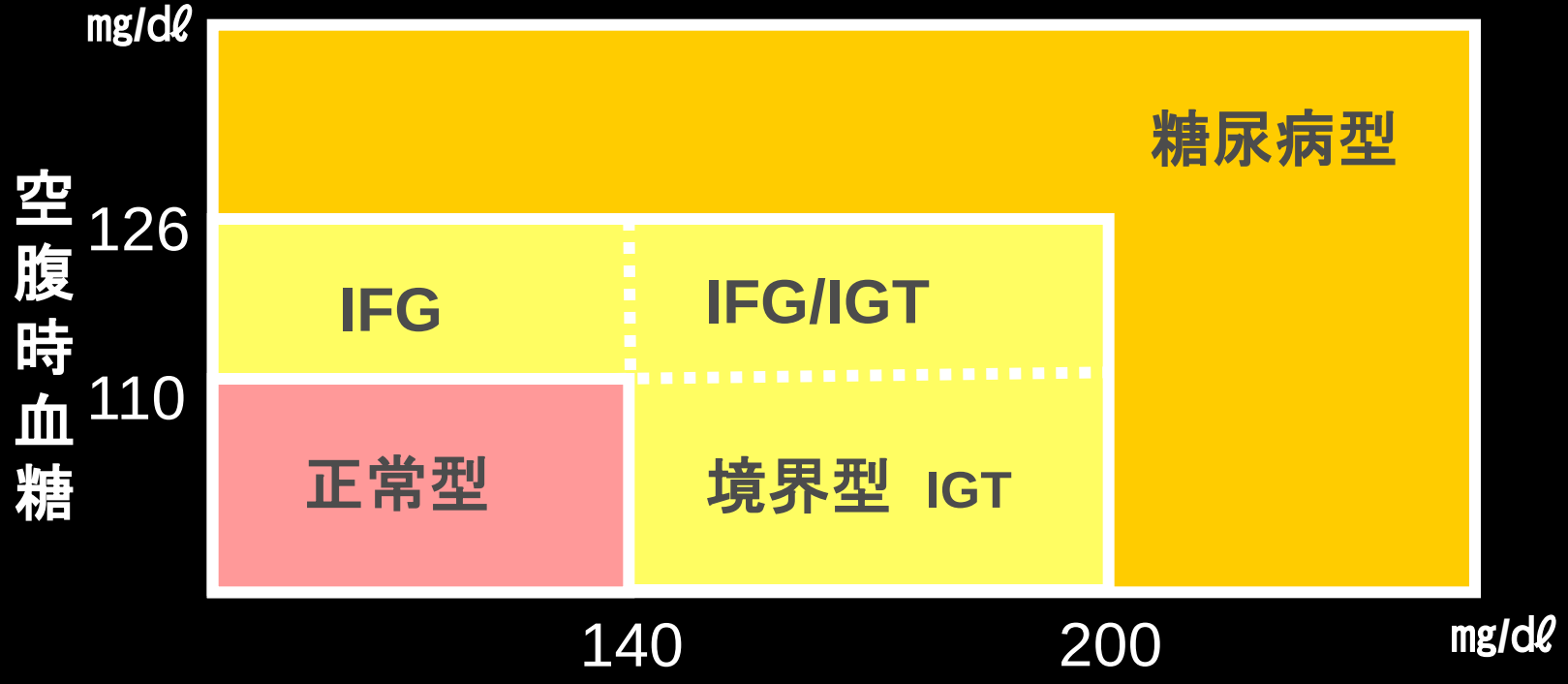
- 測定項目

  空腹時血糖値、食後2時間血糖値

患者の代謝状態を勘案し総合的に判断する数値として用いる。
ブドウ糖によりインスリン分泌を刺激し、血糖値の推移を調べ、
膵β細胞の機能やインスリン分泌能、抵抗性を評価する。



空腹時血糖値および75gOGTTによる判定区分



IGT：耐糖能異常
IFG：空腹時血糖異常

糖尿病治療ガイド　2008－2009，日本糖尿病学会編

食事負荷試験

糖尿病と診断された患者の食前後の血糖コントロール、インスリン分泌能、治療効果の評価

一般的には400kcalのテストミールを用い、血糖値の推移を測定
当院では患者の日常血糖コントロール把握のため、患者自身に朝食を持参してもらい検査を実施する。





75gOGTT 食事負荷

受付 | 検査前確認事項 | 負荷前 | 負荷物投与 | 負荷後

採血室受付機にて受付



10時間以上空腹状態であるか確認する



食事・薬の持参確認

Aブースにて負荷前採血・採尿

負荷前血糖値の確認

ブドウ糖負荷



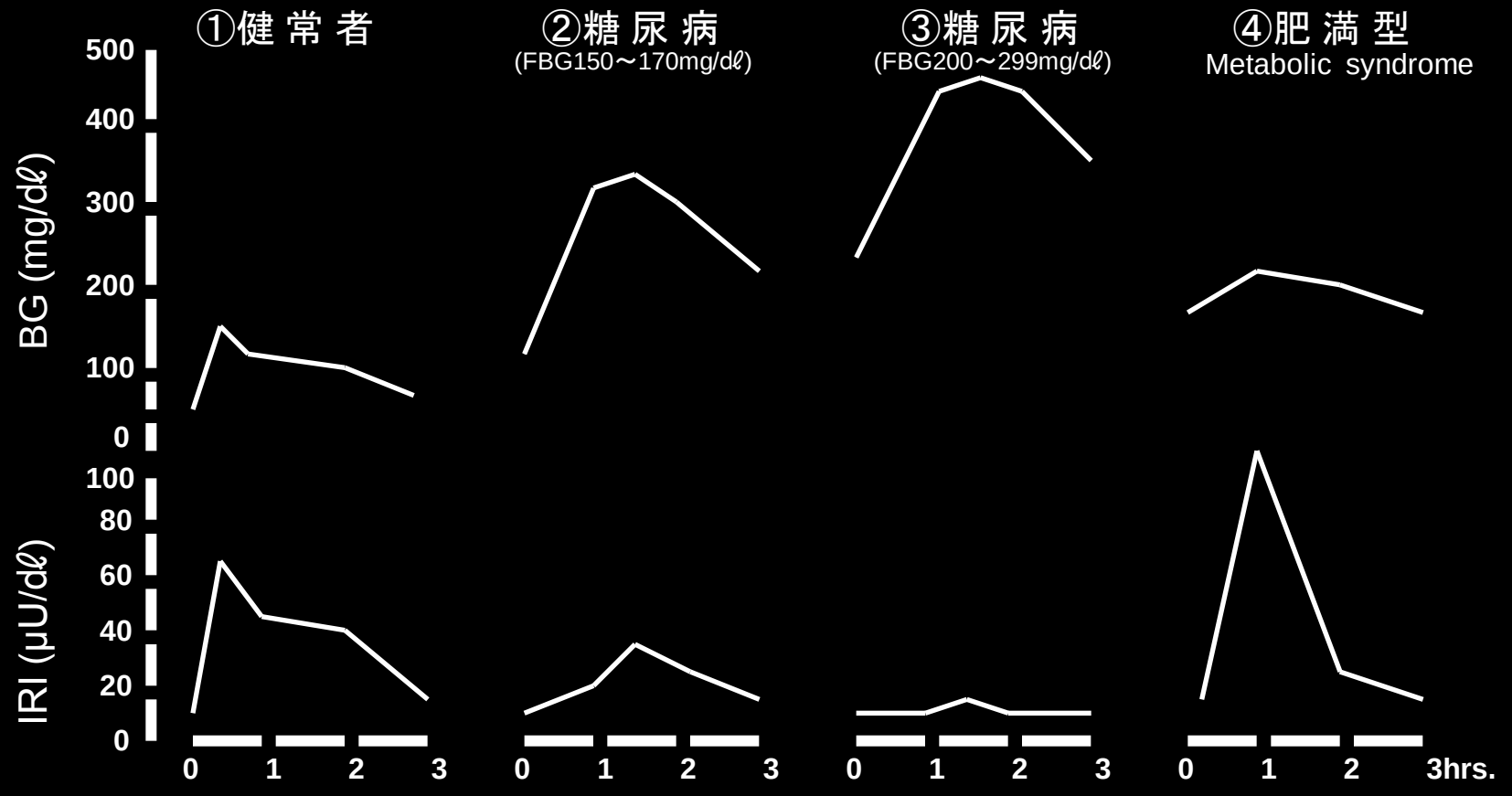
食事負荷



負荷後採血・採尿



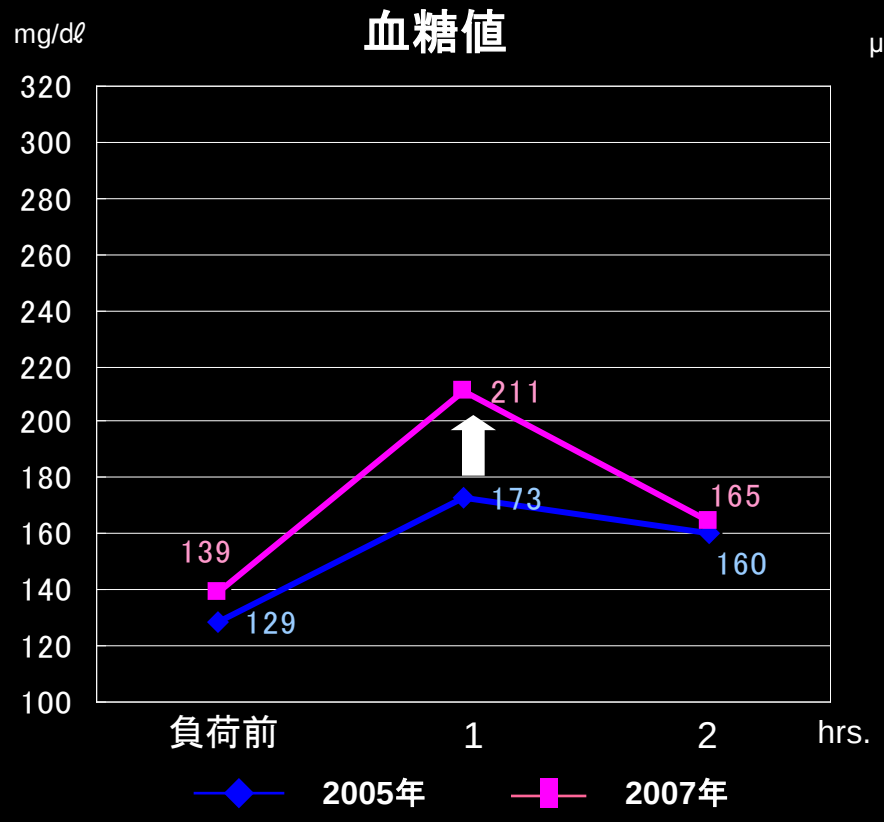
健常者及び糖尿病における 75gOGTTの平均血糖曲線と平均IRI反応

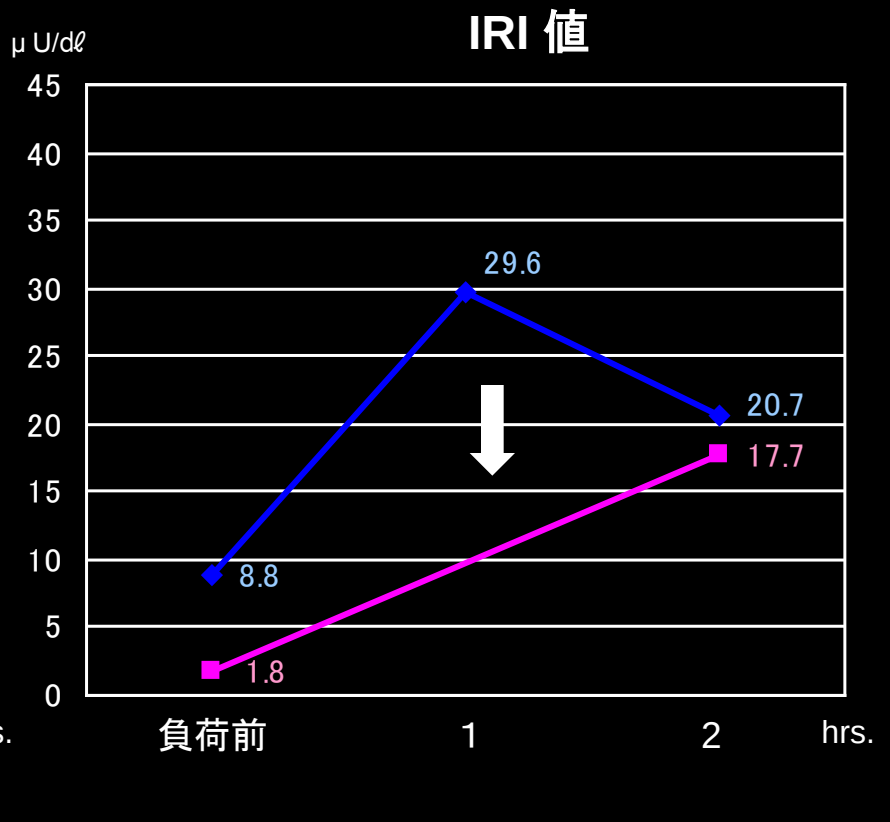


羽倉稜子：綜合臨床，30:1503－1508，1981より

内因性インスリン分泌の変選

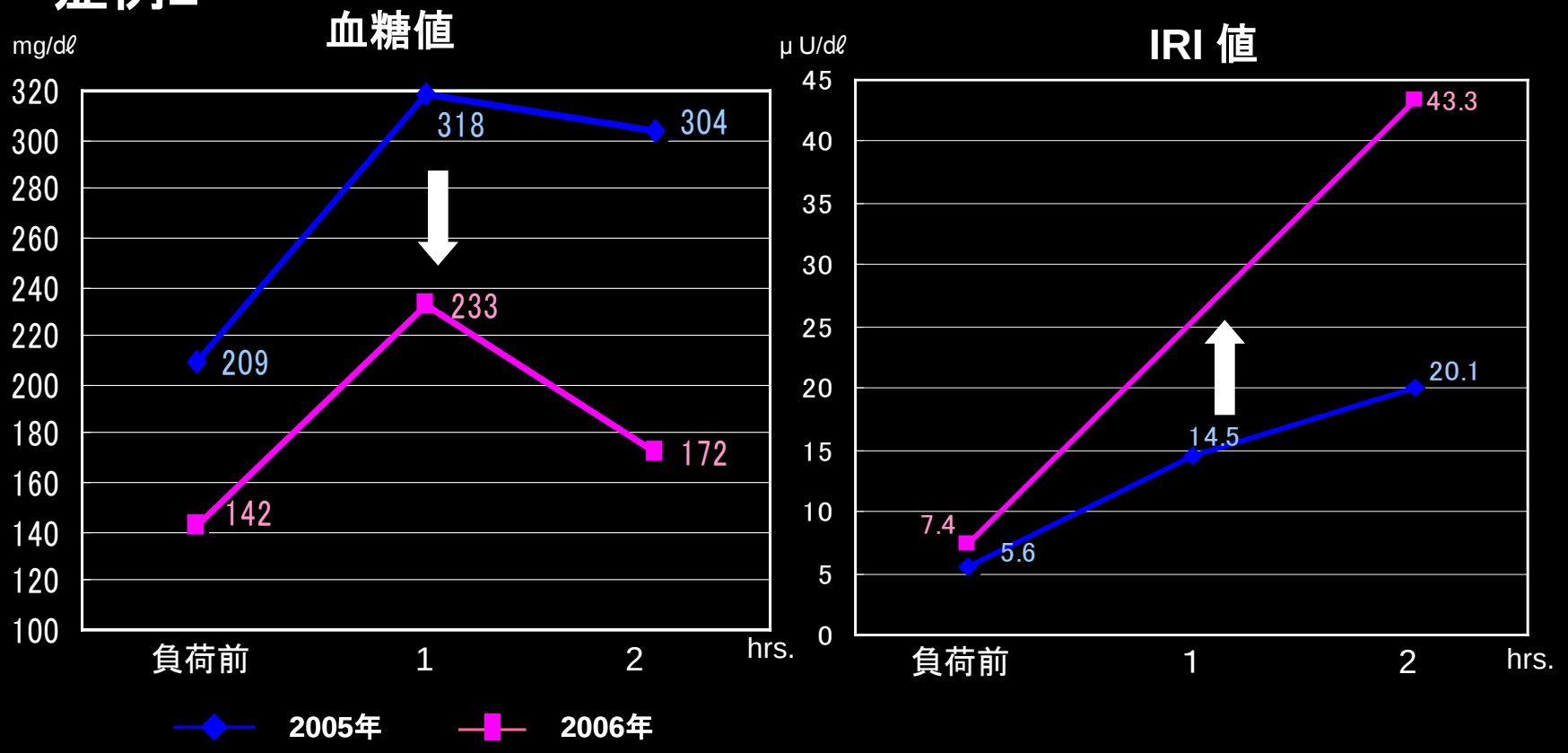
症例1





経口薬治療効果

症例2


血糖値
mg/dℓ
320
300
280
260
240
220
200
180
160
140
120
100
318
304
233
209
172
142
負荷前
1
2
hrs.
IRI 値
μ U/dℓ
45
40
35
30
25
20
15
10
5
0
43.3
20.1
14.5
7.4
5.6
負荷前
1
2
hrs.
2005年
2006年

結語

- 75gOGTT、食事負荷試験は検査の目的を十分に把握し、検査開始前の患者からの聞き取り、負荷前の血糖値の確認をし、検査実施可能かどうかの判断が非常に重要である。
- 75gOGTT、食事負荷試験は糖尿病の判定や病態の把握ができる検査であるとともに、自然経過や治療効果を検討することができる有用な臨床検査である。